

磐田地区校長会

制服のあり方検討委員会報告書

制服のあり方検討委員会

令和6年2月

目次

はじめに	1
1 磐田市立中学校の現状と課題	2
(1) 磐田市内の中学校制服の現状	2
ア 各校の制服	2
イ 保護者の経済的負担	3
ウ 制服のメリットとデメリット	5
(2) 生徒、保護者、教職員へのアンケート結果	6
ア アンケート結果	6
イ 分析と考察	7
2 国等の動き	9
(1) 国や県の動向	9
(2) 県内他市の状況	10
ア 掛川市立中学校	10
イ 浜松市立中学校	10
ウ 袋井市立中学校	10
3 中学校制服の今後のあり方	11
(1) 今後の制服に求める諸機能	11
(2) 制服の選定	11
ア 制服選定委員会の設置	11
イ 各中学校における採用に係る留意事項	12
ウ 制服の取引における公正な競争の確保	12
エ デザイン等への生徒、保護者の意見を反映	13
(3) 制服検討に係る教育的価値	13
4 終わりに	14

はじめに

制服は、愛校心や帰属意識を高め、仲間意識や連帯感が醸成され、また、各家庭の経済格差が表れにくいといったメリットがあることから、全国の中学校、高等学校等において定着している。一方、気候変動や社会の急速な変化により、登下校を含めてより快適で過ごしやすい服装や多様性の配慮、保護者の負担など様々な観点から今後の制服のあり方が問われる時代となっている。

国などの動きとして、平成 29 年に公正取引委員会は、制服の指定・仕様、学校と制服販売業者との関係、制服の販売価格などに関する「公立中学校における制服の取引実態に関する調査」を実施し、報告書をまとめ学校に対して期待する取組を示している。文科省は平成 30 年 3 月 19 日付けの通知「学校における通学用服等の学用品等の適正な取り扱いについて」において、保護者等の経済的負担が過重なものにならないよう留意することなど留意条項を通知している。また、令和 4 年には「生徒指導提要」が 12 年ぶりに改訂され、そこでは、共感的な人間関係を育む中で、安心して授業や学校生活を送れるような学校風土を児童生徒自らが自発的・主体的につくり上げるように支援していく積極的な生徒指導の重要性が盛り込まれている。更に、多様性や発達障害、精神疾患など多様な背景を持つ児童生徒に関しては、個別の事案に応じ、児童生徒の心情に対応した特別な支援を求めるなど、社会の変化に即した指導が示されている。

上記を踏まえ、市内のすべての中学校の制服を統一したり、男女共通のデザインを取り入れたりする取組が全国的に広がりを見せている。県内でも裾野市をはじめ近隣の掛川市や袋井市等で検討会が設置され、新しい制服が選定された。

磐田地区校長会では今般の状況を踏まえ、未来をひらく磐田の子供たちの健やかな成長を支援するため、今後の制服のあり方（制服に求められる機能性や法令に準拠した選定方法等）について、「磐田市における今後の制服のあり方（報告）」として今回とりまとめた。これにより、生徒が安心・安全に生活できるような制服に対する議論が今後、幅広く展開されることを期待している。

I 磐田市立中学校の現状と課題

(1) 磐田市内の中学校制服の現状

ア 各校の制服

(ア) 制服の形状

磐田市内の制服は、小中一貫教育施設一体校のブレザータイプ（1校）以外は、標準型学生服、標準型セーラー服が基本である。（9校）。

夏服はワイシャツか開襟シャツにストレートズボン、もしくはひだスカートに白のセーラー服である。白のセーラー服は、紺襟の上衣が7校、同タイプで胸当てのない学校1校、身頃も襟も白で紺のラインが1校、すべての学校で紺のリボンを着用している。

ブレザータイプの学校は、ブレザーとネクタイ・リボンを着脱することにより、季節の変化に対応している。

(イ) 制服の指定

8校で、学生服の指定は標準型（日被連全国標準型学生服）と書かれた「標準マーク」がついているという記載か、標準型の細かな指定が記載されている。ベルトの色は黒以外に茶色も可としている学校が2校ある。

セーラー服は襟、胸当て、ポケット、袖口に白いライン3本が基本型となっている。

ひだスカートは膝が隠れる程度の長さやベルトを折り返さないなど、着用した際の丈に関する表記が9校、ひだの数（24本か28本）を3校が指定している。

また、どの学校も男女の指定をするような表記はなく、2種類の制服として「学生服」「セーラー服」としている。磐周地区では1校のみ「どちらを選択してもよい。」と表記している。

(ウ) 着用のルール

近年、生徒の主体性、気候変動などにより、細かなルールを設けず、気候や体調を考えて制服を着用する傾向にあり、衣替えなどの期間を設けない学校も多い。また、現在、ルール見直しの過渡期にあり、「生活のきまり」が見直されている学校もある。

すべての学校で、夏の暑さ対策として、体操服での登校を許可している。また、寒さ対策としてスパッツ、タイツの使用を認めており、それに伴って靴下の色をグレーや紺、黒も可としている学校が1校。残りの9校は白としている。全ての学校で雨天時、部活動後などの下校時は体操服やジャージでの下校を認めている。

セーターやトレーナーなどの防寒着の着用に関しては、制服やジャージの裾、袖口からはみ出さないように着用することや白・グレー・紺など目立たない色のものを着用するよう指定している学校が多い。

専用の更衣室がないことから、制服の下に体操服を着て登校することを認めており、登校後すぐに、教室で上衣を脱いで着替えを済ませている学校が8校。着替えの必要な場合は場所（教室）を指定して着替えさせるとい学校が1校。余裕教室を更衣室として設定し、着替えの必要な授業の1時間前に着替え、その後は体操服や校内服で過ごし、特に必要がなければ終日制服で過ごす学校が1校であった。

イ 保護者の経済的負担

大手制服メーカーによると、早期予約やグループ予約などさまざまな割引があるが、割引がない場合、全ての衣料品（体操服・靴・靴など）をそろえるとおよそ13万～15万円ほどかかる。現在、磐田市では、新中学生応援事業として3万円（3,000円×10枚）の商品券が支給されている。期限を過ぎると使用できないため、制服を購入する全員（100%）が補助券を利用している。

学生服の価格帯は以下の通りである。

		素 材	特 徴	価 格
冬 学 生 服 上 下	A	ポリエステル100%	はっ水加工・静電気防止	30,600円から
	B	ウール30% ポリエステル70%	ストレッチ性 寒いとき暖かく、暑いときは涼しい裏地	42,000円から
	C	ウール50% ポリエステル50%	ストレッチ性・抗菌防臭加工	52,100円から
年間使用		ポリエステル65% 綿35%	長袖シャツ（夏冬兼用）	3,400円
夏 服		ポリエステル100%	夏物スラックス	7,200円
	A	ポリエステル95% アセテート5%	半袖ニットシャツ ノーアイロン で手入れがとても簡単	3,980円
	B	ポリエステル65% 綿35%	半袖カッターシャツ	3,100円
	C	ポリエステル65% 綿35%	半袖開衿シャツ	3,100円

全てに約3年間の修理無料の特典が付く。また、袖3cm、裾13～14cm、ウエスト3cm伸ばす事ができる。丸洗いで家庭での洗濯が可能である。

冬服の昨年度の購入状況は、Cタイプは約7割を占め、続いてBタイプが約3割である。Aタイプの購入は0件であった。

夏服の半袖シャツは、ポリエステルと綿の混紡が主流であったが、本年度からは手入れが簡単なノーアイロンでしわができてにくいポリエステルとアセテートの混紡が販売の中心である。

セーラー服は以下の2タイプである。

		素 材	仕 様・特 徴	価 格
冬 セーラー 上下	A	ウール 30% ポリエステル 70%	・前開きホック留めタイプ 撥水加工・撥油加工・静電気を抑えられる耐電防止加工 ・ひだスカート	40,200 円から
	B	ウール 50% ポリエステル 50%	・前開きファスナータイプ 汚れが付きにくい防汚加工・軽くしてしわになりにくい・雨や皮	45,700 円から
			脂もはじく超撥水・撥油加工 ・ひだスカート	
夏 服		夏ひだスカート	ポリエステル 50% ウール 50% 夏服でも毛が入ることで、透けにくさ、ひだの取れにくさ、テカリ防止効果あり	16,000 円
	A	ポリエステル 80% 綿 20%	長袖セーラー 前開きホック留めタイプ	10,200 円
			半袖セーラー 前開きホック留めタイプ	9,800 円
	B	ポリエステル 80% 綿 20%	長袖セーラー 前開きファスナータイプ	11,000 円
半袖セーラー 前開きファスナータイプ			10,500 円	

A B両方とも自宅で丸洗い可能、横に伸びるストレッチ、丈夫な生地、スカートはアジャスター仕様で、3年間修理無料である。(価格は、ネクタイは別売り)

セーラー服の購入状況は、Bタイプが9割、Aタイプ1割である。夏服は冬服購入時に選択したタイプを購入する。

近年は熱中症対策で夏季は校内服による登校を実施している学校が多いことや、冷房が完備されているため、夏服は長袖1着、半袖1着を購入する家庭が多い。

学生服は素材によって黒の色に差があり、ポリエステル100%のAタイプは黄色みがかかった黒色でBやCと比べると色に深みがなく違いは一目瞭然であるということであった。また、セーラー服は防寒、シルエットの美しさなどからファスナー仕様のBタイプが9割を占め、Aタイプは1割であった。これらのことから、購入の際は入学準備金も支給されることもあり、価格のみでなく、着心地や見た目を重視していることが分かる。

市内唯一のブレザータイプの制服はブレザーにズボンが56,080円、ブレザーにスカートが62,180円である。ブレザータイプは中に着るワイシャツやブラウスは夏冬兼用で着用できるため洗い替えを含めて2～3枚準備するのが一般的である。また、ブレザーにセーターやベストを重ね着することで温度調節が可能である。

現在、学校によってはPTA活動の一つとして、制服リサイクルを実施しており、成長期の買

い替えとして活用している保護者もいる。同様に、業者でもリサイクル制服の活用を進め、買い替え用の制服として安価に提供できるように準備をしているところもある。

ウ 制服のメリットとデメリット

制服は、明治期に学習院で採用された詰襟の学生服が始まりとされている。昭和に入ると戦時体制が進み、詰襟の学生服ではなく、国民服・もんぺ姿が標準となっていた。戦後になると、男子は詰襟の学生服、女子はセーラー服だけでなく、ブレザーやキュロットスカートなどの様々なデザインが採用され、学校文化の一つとして制服が定着している。

また、制服には、次のようなメリットがあることが指摘されている。

- ・各家庭の経済的格差が表れにくく、服装（見た目）に個人差が出ない。
- ・学校への愛校心や帰属意識を高め、仲間意識や連帯感が醸成される。
- ・毎日の服装に悩む必要がなく、風紀の乱れを防止できる。
- ・冠婚葬祭でも着用できる。
- ・いくつかの価格帯から選択できる。

このように制服には様々なよさや価値があると考えられるが、昨今の気候変動や価値観等の多様化、社会常識の変化等により、これまで市内中学校が採用してきた制服（詰襟の学生服やセーラー服）については、デザインや機能等についてその在り方を見直す時期が来ており、県内においてもその動きが加速している。

また、現在採用している詰襟の学生服・セーラー服については、生徒からも次のような意見が寄せられており、近年の気候変動や価値観等の多様化に対応できる制服を検討していく必要がある。

<夏季の暑さ、冬季の寒さ関連>

- ・今の制服は暑い、冬は寒い。
- ・通気性を良くして、実用的にして欲しい。（動きやすく、着やすく）
- ・暑さ寒さ（季節）に適応できる物にして欲しい。
- ・ベストやカーディガンで対応できるようにして欲しい。
(セーラー服の下に着用できない)
- ・厳寒期にスカートでの自転車通学は、寒くて耐えられない。

<価値観等の多様化に関連>

- ・女子もスラックスを選択できるようにして欲しい。
- ・セーターやベストを着用したい。
- ・リボンを廃止して欲しい。（きれいに結ぶのに時間がかかる 朝の余裕がなくなる）
- ・ジャケットやブレザーを着用したい。

(2) 生徒、保護者、教職員へのアンケート結果

ア アンケート結果

市内小中学校の保護者（小学校4年から中学校3年）及び中学1年から3年の生徒、中学校教員に対して以下のアンケートを行った。

問1 一人一人がより快適に学校生活を送るためには、どのような制服がのぞましいとお考えですか。当てはまるものをすべて選んでください。

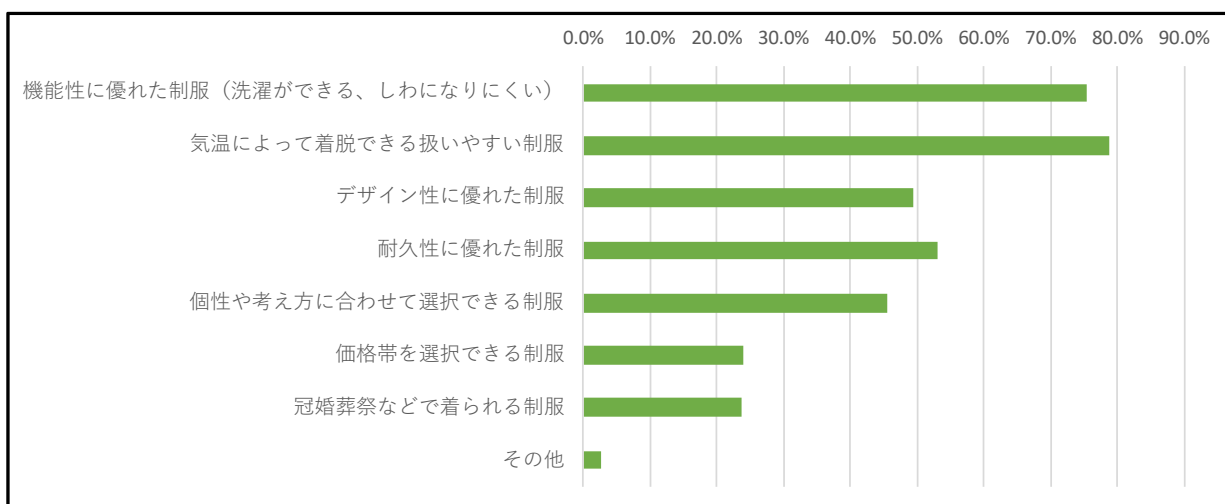
- 1 機能性に優れた制服（洗濯ができる、しわになりにくい）
- 2 気温によって着脱できる扱いやすい制服
- 3 デザイン性に優れた制服
- 4 耐久性に優れた制服
- 5 個性や考え方に合わせて選択できる制服
- 6 価格帯を選択できる制服
- 7 冠婚葬祭などで着られる制服
- 8 その他（ ）

問2 中学校制服について、ご意見があればご入力ください。

(ア) 中学生（全回答数 3125 件）

「気温によって着脱ができる扱いやすい制服」が 2,466 件で 79%、「機能性に優れた制服」が 2,353 件で 75%を占めた。

問2については「今の制服は暑い（冬は寒い）」「機能性を良くして実用的にしてほしい」「服装を選べるようにしてほしい」等の意見が寄せられた。

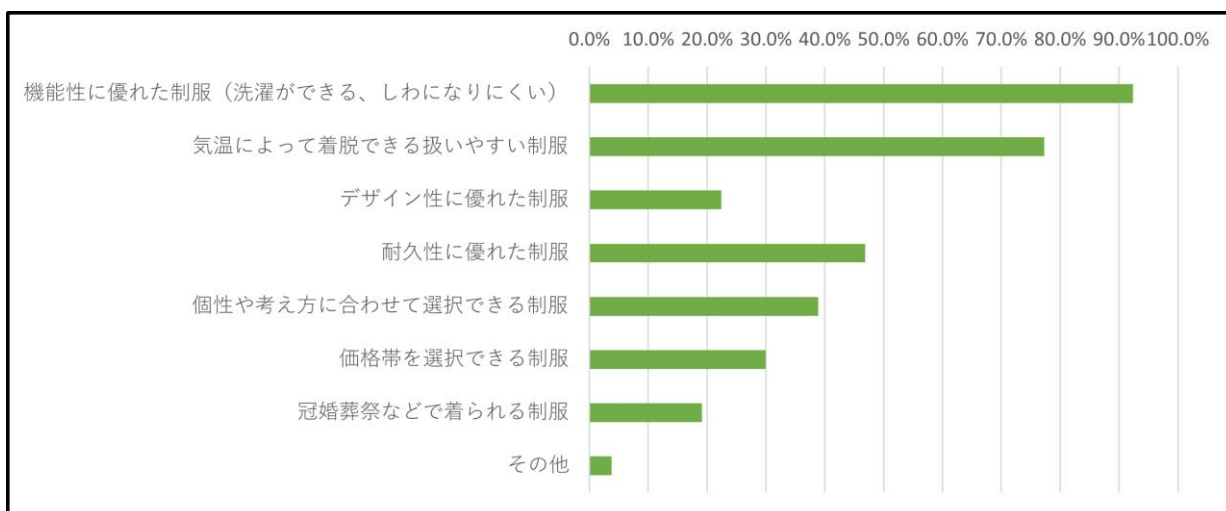


(イ) 保護者（全回答数 4,702 件）

「機能性に優れた制服」が 4,345 件で、全体の 92%を占めた。次に「気温によって着脱できる扱いやすい制服」が 77%で割合としては多かった。

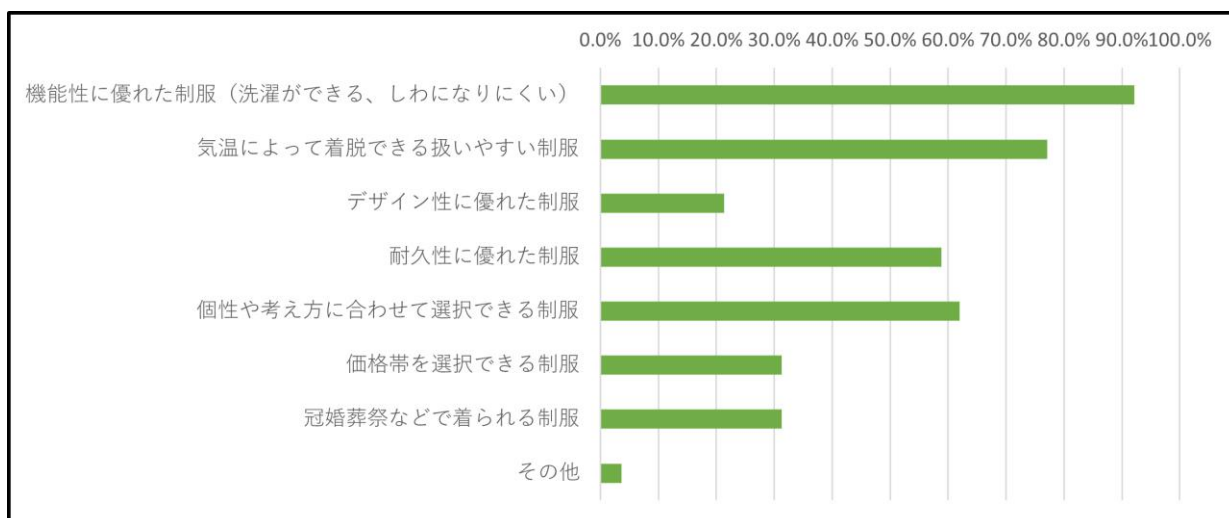
生徒と比較してデザイン性に優れた制服の割合は低い傾向となった。

問2については、「価格が高い、安くしてほしい」「制服の必要性を感じない」「体操服（ジャージ）での登下校や生活でよい」という意見が多数見られた。



（ウ）教師（全回答数 192 件）

「機能性に優れた制服」が 177 件で 92%をしめた。次に「気温によって着脱できる扱いやすい制服」と「個性や考え方によって選択できる制服」の割合が高かった。問2については、「服装を選べるようになってほしい」「多様性を尊重したい」等の意見が最も多かった。



イ 分析と考察

アンケート結果から、実際に着用している生徒は、「暑さや寒さへ対応できる制服」を強く求めていることが伺える。アンケートを採った時期が9月であり、夏場の猛暑が結果に大きく影響したと考えられる。また、それに伴って「通気性をよくしてほしい」「着脱しやすい・動きやすい」などの機能面を向上させたいと考えている。また、女子でもスラックスなどズボンの着用を求める声も多く見受けられた。

保護者は「機能性」を求める声が圧倒的に多かった。これは生徒の場合と同様に、現行の制服が現在の気候に対応しにくいと捉えていることが理由と考えられる。それに伴って、「服装を選

べるようになってほしい」と考えている保護者も多い。ブレザーやスーツ、ベストやカーディガン、スラックスやパンツ・キュロット、夏はポロシャツやTシャツなど各家庭や個々の判断で「服装を選択」し「着脱しやすい」こと、また、「日々汚れても洗濯ができる制服」を求める声が非常に多かった。「体操服やジャージが制服代わりで良い」という意見が多いのは、ここに要因があると思われる。

また、価格と制服の必要性に言及している保護者が多く見られる。現在、中学校では登校後すぐに校内服、体操服に着替える学校が多く、制服を着ている時間が短い現状がある。また、熱中症対策で夏場は登下校も体操服を認めている学校もある。高価な学生服を購入したものの、着る機会が少ないためにその必要性に疑問を感じているものと考えられる。特に「夏の制服はなくしても良いのではないか」という意見や「体操服やジャージが制服代わりでよい」という意見は、制服の着用機会の減少にその要因があると思われる。

教師も傾向は同じで、「機能性に優れた制服」「気温によって着脱できる扱いやすい制服」に回答が集中した。また、「デザイン性」よりも「個々の判断で選択できる」ことへの割合が高かった。学校現場で多様性・個性を重視する教育の重要性が広がりを見せていることが反映されたものと考えられる。

2 国等の動き

(1) 国や県の動向

全国的な制服改定の動きがある中で、子供の主体性を伸ばしたり主体的な選択をする力を育んだりする意味からも、磐田市において従来の制服のあり方を見直していくことは必要であると考えます。改定にあたっては、文部科学省、公正取引委員会が以下の提言をしている。

① 文部科学省

「学校における通学用服等の学用品等の適正な取扱いについて」において、以下の3点を留意事項として通知した。

- ・学校及び教育委員会は、標準服等の学用品の購入について、保護者等の経済的負担が過なものとしないようにすること
- ・教育委員会は、保護者等ができる限り安価で良質な学用品等を購入できるよう、各学校の取組みを促すこと
- ・学校における標準服の選定や見直しについては、最終的には校長の権限において適切に判断すべき事柄であるが、保護者等学校関係者からの意見を聴取した上で決定することが望ましいこと

さらに、文部科学省は令和4年12月に「生徒指導提要」の改訂版を公表し、その第II部第12章「性に関する課題」の中で、性同一性障害に関する児童生徒について、個別の事案に応じ、児童生徒の心情等に配慮した対応の必要性を示している。また、「いじめの防止等のための基本的な方針」の中で、教職員への正しい理解の促進や、学校としての必要な対応を求めている。

静岡県もこれを受ける形で、令和5年度「静岡県人権教育の手引き」の中で、トランスジェンダーに係る子供への支援事例の一つとして、服装に関して、自認する性別の制服・衣服や、体育着の着用を認めることを推奨している。

② 公正取引委員会

制服の指定・仕様、学校と制服販売業者との関係、制服の販売価格等に関する「公立中学校における制服の取引実態に関する調査」から以下の2点を報告した。(平成29年11月29日)

- ・制服メーカーや販売店間の競争を促して安価で良質な標準服が提供される可能性を高めるため、コンペや見積り合わせにより制服メーカー等を選定すること
 - ・購入窓口の増加を通じて、より好ましい取引環境を作り出すため、指定販売店等を増やすこと
- このように、性的マイノリティーに該当する児童生徒が、自身のそうした状態を秘匿しておきたい場合があることなどを踏まえつつ、日頃から児童生徒が安心して生活できる環境を整えていくことの一つとして、これまでの制服のあり方を見直し、時代のニーズに合ったものを検討していきたい。

(2) 県内他市の状況

他市においても、機能性、経済性、性の多様性等、様々な観点から現行の制服を見直す動きが見られる。

ア 掛川市立中学校

令和3年度、教育委員や小中学校代表者による制服あり方を検討する意見交換会で、男女共通デザインや市内統一制服などを含めた市内制服のあり方検討の必要性が高まっているという共通認識が示された。また制服の改革を「自ら考え、自ら判断する」という掛川市の学校教育の目標にも関連付けながら協議が行われた。

令和6年度から導入が予定されている新たな制服では、性別に関わらず、スラックススタイル、スカートスタイルが選択できるようになっている。また、夏服としてワイシャツスタイルとポロシャツスタイルが選択できる。

イ 浜松市立中学校

令和3年度に文部科学省からの「校則の見直し等に関する取組事例」の通知を受け、制服の見直し状況の調査を実施する等、各中学校で制服の見直し検討が進められた。令和4年度には浜松市教育長より、制服のあり方を検討する委員会を設置する考えが示され、令和5年度に「浜松市立中学校制服のあり方検討委員会」が設置された。

各学校で、生徒や保護者にニーズ調査の実施、生徒主体で検討、学校運営協議会やPTAなどの活用により、幅広く意見等が聴取されている。

ウ 袋井市立中学校

気候変動やグローバル化の進展といった課題への対応、多様性を尊重する考え方への対応から、一人一人の生徒がより快適に、より楽しく学校生活を送ることができるよう令和4年度に袋井地区校長会により「袋井市立4中学校制服選考委員会」が設置され、新たな制服が令和5年度に制定された。

令和6年度から市内4中学校で新たな制服の導入が予定されており、ジャケット、スラックス・スカートのデザインで、ネクタイやリボン各中学校で選択できる形となっている。

3 中学校制服の今後のあり方

(1) 今後の制服に求める諸機能

今後の制服には、生徒、保護者、教職員へのアンケート結果に示されているとおり、「気温や季節、自身の体調等によって着脱できること」「洗濯できたり、しわになりにくかったりして手入れがしやすいこと」「耐久性に優れていること」さらに、「一人一人の個性を尊重する多様性へ配慮できること」などが求められる。

近年、制服の主流は、詰襟の学生服・セーラー服からブレザータイプの制服へ移行しつつあり、近隣市町の中学校でも同様の傾向にある。セーラー服は気温や自身の体調等による着脱ができない。また、首回りが大きく開いていることがあり、防寒性に欠ける面もある。詰襟の学生服についても、首周りの窮屈さを感じる生徒もいる。一方、ブレザータイプであれば、着脱が容易であり、セーターやカーディガンなどを重ね着することもできる。首回りも詰襟の学生服に比べ、ゆとりがある。さらに、ブレザータイプであれば、スカートとスラックスの性別による制限を設けず、生徒の判断によって選択することも可能となる。多様性への配慮ができることはもちろんであるが、それだけでなく、女子生徒がスラックスを選択し、着用することにより、冬季の防寒対策や自転車通学時のスカートの巻込み事故を防ぐことにもつながる。

課題は、全国的に汎用性の高い詰襟の学生服・セーラー服に比べ、学校独自の様々なデザインが多いブレザータイプの制服は販売価格が高額になりやすい傾向にあることである。保護者の費用負担をできるだけ少なくするために、機能性と価格のバランスの取れた制服を採用することが求められる。また、家庭によってワイシャツやポロシャツ、カーディガン等において、市販品を含めた選択ができるようにするなどの配慮が必要である。

(2) 制服の選定

ア 制服選定委員会の設置

今後、上記の諸機能を満たす標準服を各校で作成していくにあたり、大きく次の二通りの方法が考えられる。一つは、各中学校で制服の仕様を作成し、制服メーカーや販売店を決定していく方法。もう一つは、複数校で制服の仕様を作成し、市内の制服を共通化し、制服メーカーや販売店を決定していく方法である。

複数校が制服の仕様を作成するメリットとして、①市内で仕様を共通化することにより、スケールメリットが発生し、保護者に対する販売価格を抑える効果があること、②同一市内で転校した場合は、保護者が制服の買い替えをしなくて済むこと、③制服の仕様の作成や制服メーカーや販売店を決定するための業務を各中学校で行う必要がなく、制服を決定するための業務が軽減できることなどが期待できる。

制服の仕様作成にあたり重要視すべき点は、「機能性」、「生徒（児童）・保護者の意見」、「デザイン」、「販売価格」などである。「機能性」とは、家庭で洗濯ができる素材、撥水・速乾性のある素材、丈直しが容易にできる機能、ポケットが多くあるなどを指す。「デザイン」とは、男子生徒、女子生徒ともにブレザーなどの意匠を指す。「販売価格」とは、現在指定している制服と比べて、

販売価格が上回らないようにすることを指す。

これらの点に考慮した制服を作成していくためには、様々な視点からより広い意見をもとに制服を選定していく必要がある。そこで、新しい制服への変更を希望している学校が参加する「磐田地区制服選定委員会（仮称）」を設置し、制服の仕様の具体について話し合っていきたい。

委員は、教頭代表、教員代表、学府PTA代表（保護者代表）、学識経験者（大学教授）、などで構成することが適当である。

イ 各中学校における採用に係る留意事項

前述のとおり、制服を選定していく方法として、各中学校主導で行う場合と自治体等が主導で行う場合の二通りある。

各中学校が独自で制服の選定を実施する場合は、必ず複数の制服メーカーから中学校にふさわしい制服の提案を受け、その提案を、職員をはじめ、生徒や保護者などからそれぞれの提案に対する長所や短所などの意見を聞きとり、それを受けて慎重に決定していくことが必要である。

複数校で制服の選定を実施する場合は、「磐田地区制服選定委員会（仮称）」を設置し、そこで選定した制服を採用する。ただし、今後「磐田地区制服選定委員会（仮称）」が磐田市の新しい制服を選定したとしても、現行の制服から新しい制服に変更する決定は、各中学校において行われることを確認しておく。

新しい制服を採用する場合の移行期間は3年間で望ましい。また、新しい制服を採用する方法として、次の3つが考えられる。

- ① 全生徒が新しい制服とする。
- ② 新しい制服と従来の制服を生徒や保護者が選択できる。
- ③ 従来の制服を継続する。

いずれの方法についても、各中学校が学校の現状を踏まえ、最善の方法をPTA等の関係者と協議したうえで選択し決定していく必要がある。

ウ 制服の取引における公正な競争の確保

平成29年11月に公正取引委員会事務局がまとめた「公立中学校における制服の取引実態に関する報告書」によると、制服メーカー及び指定販売店等の選定について、「学校においては、コンペ、入札、見積合わせといった方法で制服メーカーや指定販売店等を選ぶこと」が記されている。これらの方法で制服の決定を行うことにより、制服メーカーや指定販売店間の競争を促すことにつながり、生徒や保護者に対して安価で良質な制服が提供できる可能性を高めることにつながるからである。

コンペ方式のメリットとして、制服の仕様に関わる部分を、専門的な見地から提案されることに加え、リース方式やリサイクルなど、制服の価格や環境に配慮した提案が期待できることにある。

入札や見積合わせについては、コンペ方式より制服の価格面でのメリットが期待できるが、入札や見積合わせまでに制服の仕様を細かく作成する必要があり、作成までの負担が大きい。

コンペや入札、見積合わせを実施するにあたり、一部の企業にだけ声を掛けて進めていくことは、平等性の観点から公正取引に抵触する恐れがある。業者の公募の方法、コンペや入札の方法

など、行政（教育委員会）の指導の下、慎重に進めていく必要がある。

販売店による制服の販売価格について、次の行為は制服メーカーが販売店の販売価格の自由な決定を拘束する行為を誘発しないと考えられることから、学校や市は次のことを要請しても良い。

- ① コンペや見積合わせにおいて制服メーカーに求める提示価格を制服メーカーから販売店への卸売価格とすること。
- ② 制服メーカーに対して、既存の制服又は他の中学校の制服の販売価格と同程度の想定販売価格を提示できることをコンペの参加要件として定めること。
- ③ コンペにおいて、新制服の販売価格を既存の制服の販売価格以下の価格にするよう要望すること。

一方、次の行為は販売店の販売価格の自由な決定を拘束することとなり、独占禁止法の観点から、学校や市は次のことを行うべきではない。

- ① 学校が制服メーカーの提示価格を保護者が購入する際の販売店における販売価格にするよう求めること。
- ② 学校、制服メーカー、販売店の三者で制服の販売価格を取り決めること。
- ③ 学校が制服メーカーに対して販売店の販売価格を統一させるように求めること。

学校は、独占禁止法上問題となり得る競争制限的な行為を誘発しないよう留意する必要がある。

エ デザイン等への生徒、保護者の意見を反映

制服のデザイン等を決定していくにあたり、生徒や保護者の意見が反映されるよう配慮していくことが重要である。

コンペを行う場合は、制服メーカーから提案された複数のデザインの家を生徒や保護者に示し、アンケートなどの形で意見を集約し、その結果を考慮しながら制服メーカーを決定する。

入札や見積合わせを行う場合でも、制服の仕様を複数作成し、コンペと同様に生徒や保護者に複数の案を示し、意見を集約した結果を考慮して仕様を決定する。また、生徒や保護者に新しい制服のイラストなどを募集し、それらのアイデアを参考にして制服の仕様を作成していく方法も考えられる。

(3) 制服検討に係る教育的価値

ブレザータイプの制服へ変更することにより、季節や気温、体調などに応じて、生徒自身が服装を自ら考え、判断する機会をつくることができる。これは、学校教育を通して育成する資質・能力の一つである「思考力・判断力・表現力等」を育むことにつながる。さらに、男女区別なくスラックスを着用できるようにすることにより、個性や多様性を尊重する風土を育むことができると考える。

これまでの学校教育において、制服や髪型などの指導を通じて、生徒に規範意識を高めることに力を注いできた時代もあった。しかし、現在は、規範意識は大切にするものの生徒の個性や主体性に重きにおき指導をしている。制服をブレザータイプとすることにより、制服の組み合わせの選択肢が広がり、生徒自らが個に応じた判断をする場がさらに増えることになる。このことは、時と場、目的に応じた服装を選択する力を醸成することにもつながる。

4 終わりに

制服のあり方検討委員会では、生徒や保護者に対するアンケート結果の分析や国・他市町の動向などの資料を基に協議を重ねた結果、スケールメリットや利便性を考え、希望する中学校が機能性を重視した制服を共同して選定することが望ましいという結論に達した。今後は新しい制服の選定に関わる委員会を早期に立ち上げ、機能性や経済的な面での配慮など、生徒や保護者の心情に寄り添った議論が望まれる。また、各中学校区でも、これまでの学校文化や地域、保護者の思いを大切にしながら、それぞれに話し合いが進められるべきである。

改訂された「生徒指導提要」が求めるように、児童生徒が自発的・主体的に安心して生活できる学校風土を醸成できるような協議の機会を設け、未来の磐田市でたくましく活躍する子供たちにふさわしい制服を作り上げることが望まれる。